

【別添2】(様式例2)

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校

学校番号 61

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。</p> <p>(3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。</p>		
2 評価する領域・分野	◇学習指導・特別活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒による授業評価、保護者による学校評価において学習指導面、特別活動面では非常によい評価を得ている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 ICTを活用した効果的な学習・授業方法の研究</p> <p>2 次期学習指導要領実施に向けた準備</p> <p>3 生徒の自主的な活動を啓発するとともに、一人一人が主役となることで、学校生活の活性化と、自分自身や母校、地域に誇りを持つようになる。</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会の開催と充実 校内研修・研究授業・公開授業の実施 教科会を主とする共通理解に基づく全職員による指導体制 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>1. ICT機器活用研修の実施、公開授業や研究授業の実施と参加を促す。</p> <p>2. 科目の研究や評価方法の検討。</p> <p>3. 生徒の様々な方面での主体的な取組みを推進し、その活動や本校の魅力を発信する。</p>	<p>1. ICTに関するアンケート、授業評価</p> <p>2. 観点別評価の基準や、シラバス、指導と評価の年間計画等の作成</p> <p>3. 「ひだかみだより」、ホームページ、facebook等の充実、生徒会活動、部活動加入率</p>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用に関する研修会 公開授業(年2回)と教科会 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用等によりわかりやすい授業が展開されているか。 次年度入学生からの計画準備等ができてきているか 生徒の様々な主体的な取組みがなされているか 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>	
11 成果・課題	<p>○授業評価の項目「プリントや資料、ICT機器を効果的に使うなど、教え方を工夫している」で、90%がよいという評価であり、分かる授業が展開されている。</p> <p>○授業評価の項目「自ら学ぶ姿勢で授業に臨み積極的に授業に参加している」で、94%がよいという自己評価で、学ぶ意欲を喚起する授業が実践されている。</p> <p>▲探究的な学びにつながるような実践、個別最適化された学びについて、より一層実践と研究をする必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いた個別最適化された学びの実践と研究。 「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」の指導体制や指導内容を更新しながら、探究的な学びを実践していく。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

【意見・要望・評価等】

- ・ I C Tの活用が素晴らしく、特に「自ら学ぶ姿勢で授業に臨み積極的に授業に参加している」の評価がよく、楽しんで学んでいることがわかる。
- ・ I C T機器を用いた授業を参観したが、単に情報を得るだけでなくそれを活用して自分のわからない点を理解するために活用していることがわかった。

△部活動の加入率が令和2年度97%→令和3年度88%と下がっていることが気になる。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校 学校番号 61

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている よく当てはまる+やや当てはまる の割合= 保 (昨年87%) ⇒ (今年86%) ・生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる 保 (昨年87%) ⇒ (今年89%) ・適した進路情報を示し、可能性を引き出そうとしている 生 (昨年84%) ⇒ (今年92%) ・将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている 生 (昨年86%) ⇒ (今年94%) ◎進路指導に関する3項目で増加。しかし保護者の評価が生徒より進路指導に対して、まだまだ不足しているという認識で取り組みにあたりたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の推進、3年間の進路指導計画の改善 ◇外部教育力の活用、望ましい勤労観・職業観の形成・確立 ◇進路情報の提供、説明会の実施、ガイダンスの充実 ◇確かな学力の向上、指導体制の確立 ◇生徒が主体的・対話的で深い学びができるような指導体制の確立	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部と学年会・教科・他分掌との連携を図る。 ・職員会議等によって情報の共有と現状把握に努め、組織で生徒の進路指導および支援を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 組織的な全体指導と個別指導の充実 (2) 地方創生キャリアプランナーの活用	(1) 生徒一人一人の進路実現 (2) 系列選択、進路希望調査、インターンシップ	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・組織的指導および個別指導 強化学習会、進学補習、特編授業、小論文指導 模擬面接、面接指導、保護者進路説明会 ・キャリア教育 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」活用インターンシップ、出前授業、模擬体験授業、パネルディスカッションガイダンス、卒業生講話、校内企業展、職業別探究学習、全校社会人講話（後期）	①進路意識を高めた。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	②外部教育力を活用した。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	③進路情報を的確に提供した。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	④学力の向上を支援した。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	○（成果）新型コロナウイルスの影響により、大学見学、地元企業見学、全校社会人講話（前期）、分野別進路ガイダンス等が中止になったが、少人数の本校だからこそ実施できた職業別探究学習、遠方の卒業生のオンライン参加による卒業生講話など、新しい取り組みも充実させることができた。 ▲（課題）「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業では、教員主体のキャリア教育のスタイルから、生徒の主体性を尊重した授業体系を今後さらに充実させていきたい。また進学指導において、全国的にも新しい入試様式が実施される中で、安易な入試方法に流れてしまわないように、生徒に適した入試方法、学習方法を考えて指導していきたい。	
12 来年度に向けての改善方策案	・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」でのキャリア教育の充実 ・生徒が主体的に進路情報を収集し、自ら進路実現に前向きに取り組む姿勢を持てる指導体制づくり	
		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

【意見・要望・評価等】

- ・進路指導に対する生徒・保護者の評価が昨年よりさらに高くなっており、生徒の希望に沿った適切な指導が行われている。
 - ・大学見学、企業見学、社会人講話などが中止になったことは残念であるが、その中でも最大限できることをして、かつ新しい取組にも挑戦するのは前向きな姿勢として評価できる。
- △進学希望者の対応について、近年、安易な入試方法による生徒募集が増加しているが、本校生徒には志高く挑戦させるためにも様々な指導の強化をお願いします。

令和 3 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校 学校番号 61

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導 (教育相談、保健厚生、寮務)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」「いじめや差別を許さず厳しく対応している」において生徒の 90%以上からの評価を得ている。一方で「いじめや差別を許さず厳しく対応している」に関しては、23%の保護者が「わからない」と感じている。大きな問題がないためとも考えられるが、本校の「いじめを許さない指導」について丁寧に伝えていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇規範意識の向上 ・公共心と公德心の育成 (身だしなみ、情報モラル、授業規律等) ・自他を尊重する態度の育成 (いじめ防止、障がい理解と配慮、不登校支援、自尊感情育成等) ◇1人1人の生徒の心を育てる教育相談活動 ・生徒の心を正しく理解し、個々の生徒に適切な援助をする。 ◇心身の健やかな成長を図る (健康管理・安全管理・環境美化) ・健康の大切さについての知識を高める。 ◇自己管理・自治能力の向上 ・美化意識・経費節減・環境保護意識の高揚を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員の共通理解、共通行動を大前提に組織的に取り組む ・「身だしなみ指導」は、全職員 (学年団) で実施 ・ケース会議の効果的な設定。担任等関係者、専門機関との連携強化 ・保健委員会や美化委員会の活発化 ・寮務は全職員で対応 (宿直: 舎監、日直: その他の職員)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 身だしなみ指導、情報モラル講話、人権LHR、登校指導、ひまわり当番、いじめアンケート (2) 生徒理解調査、居心地度調査、教育相談週間、職員研修会、SC等専門機関・支援員との連携 (3) 朝の検温チェック、校内の消毒作業、安全点検 (4) 新しい生活様式の徹底、寮内の巡視、ノーチャイム日課の実施、毎日の清掃活動、一斉学習	(1) 全校生徒の端正な身だしなみ、いじめアンケート結果 (2) 全校生徒の登校状況、居心地度調査結果 (3) 保健室利用状況、清掃の行き届いた校内 (4) 寮務日誌特記事項、清掃の行き届いた寮内	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・昼休み、登校時等、様々な場面での声掛け ・各種調査の結果をまとめ、全職員で共有 ・特別支援教育支援員によるサポート ・新型コロナウイルス感染予防の対応を徹底 ・安全点検の実施と環境美化	①全校生徒の身だしなみ ②個々の生徒への適切な教育相談ができたか ③校内、寮での感染対策はできたか	A B C D A B C D A B C D
11 成果 ○生徒の授業態度や日常生活は非常に落ち着いている。 ○年度当初の問題行動に対して担任と連携し初期対応が迅速にできた。 ○SCと連携し、支援が必要な生徒に適切な対応ができた。 ・○コロナ感染予防の対応が学校、寮ともにでき、生徒の意識も向上している。 ▲ルール、マナーについて生徒自らが考え、判断していく姿勢をつけさせたい。 ▲不登校傾向の生徒への対応で、様々な手段を講じても難しいケースがある。	総合評価 A B C D	
12 来年度に向けての改善方策案 ・生徒会とも連携し、身だしなみ、情報モラル等について生徒自らが考え、判断していく姿勢の啓発。 ・少人数である本校の強みを活かし、生徒情報を職員間で共有し、見守り体制を強化していく。 ・不登校傾向の生徒に対し、SCや関係機関との連携、職員研修等を実施し適切な対応を心掛ける。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

【意見・要望・評価等】

- ・何か問題があっても、教員が生徒一人一人を気にかけており、対応が早いため、大きな問題にならない。生徒にもそのことが伝わっているので安心して学校に通える。
- ・学校を訪問した際や町中で生徒に会った際、生徒からあいさつしてくれる。服装もきちんとしている。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (2) 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に行動できる人材を育成する。 (3) 高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 中高一貫教育	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・11年目を迎え、地域の方々と中高の教員が協力し、地域の子どもたちを育てるキャリア教育の推進を図ることで、地域の小学生から高校生へとつながりが広がるとともに、それぞれの取組が定着し、地域にも認められてきた。これらは評価委員会委員に浸透し、目的の理解や成果は高い評価を得ている。 ・平成28年度より、連携中学校から本校への進学率が卒業生の50%前後である。生徒数が減少する状況において、60%の入学生を確保できるように魅力ある取組の充実を図りたい。 ・高等学校（本校）についての中学生の理解は、年々向上しているが、十分とはいえない。また、地域へのアピールもさらに必要である。連携活動について神岡町内に情報を提供し、さらに連携活動や飛騨神岡高校の良さを印象付けていきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ともに育てよう元気な神岡の子 <ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を軸にした教育活動を展開することで、地域の子どもたちを地域ぐるみで育てる。 ・飛騨市神岡町の特色や状況を踏まえた連携型中高一貫教育を推進することで、地域の理解や協力により、地域の活性化につなげる。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会の高校の主担当者のもと、中学校の担当者と連携して計画的に取り組む。 ・職員会議において「中高一貫教育事業の取組についての現状報告」を位置づけ、成果と課題を検証する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学力向上委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立と学力向上に向けた取組 ・中高の生徒同士の授業交流、先輩との交流 ・進路指導や学習指導に生かす教員の授業交流 (2) 交流活動委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の高等学校の理解や進路選択への支援 ・地域の人や産業から学ぶ体験学習 ・生徒会、部活動交流 (3) 地域連携委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域での合同活動 ・地域をつなぐ情報発信 ・生徒、保護者、地域との交流の推進 	(1) 学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会からの成果と課題 (2) 年2回実施する評価委員会での評価 (3) 連携中学校から本校への入学者数の増加	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 学力向上委員会（学習習慣の確立） <ul style="list-style-type: none"> ・Step by Step面談指導 ・中高の生徒同士交流（先輩と語る会3回） ・教員の交流（中高教員のT.T.による授業、相互の授業参観） (2) 交流活動委員会（進路選択への支援） <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業・職場体験学習（説明会）・地元企業見学 ・飛騨市、上宝地区小学生・保護者対象の体験授業 (3) 地域連携委員会（地域での合同活動） <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動 ・交通安全啓発運動 ・地域への情報発信 	① 計画通り実施できたか。 ② 中学生の理解や中学生の満足を得られたか。 ③ 地域からの理解や地域との交流はできたか。	A B C D A B C D A B C D

11 成果 ・ 課題	<p>○中学生にとっては、高校生との交流、高校教員との交流（高校教員のT2授業交流や出前授業）等により、進路選択においてより明確な目的意識の確立と高校入学後の学習意欲に結びついている。</p> <p>○高校生にとっては、後輩である中学生と交流する中で、発表の機会を与えられ、自信をつけることができた。</p> <p>▲中学校の先生方に、この取組の必要性・意義をさらに理解し、中学生への積極的な指導に役立ててもらえるように働きかける機会を設定する必要がある。</p> <p>▲少子化の影響で、地元中学生数が減少する中、連携校から卒業生の60%の生徒が入学してもらうために、さらに魅力ある高校にする具体策に着手する必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>・今年度は11年目という新たなサイクルに入ったが、新型コロナウイルス感染防止対策により昨年度に引き続き、例年通りの取組ができなかった。しかしながら、第2回評価委員会において今年度できたことを振り返り、今後の取り組みをより充実させるための協議を行った。各委員会の次年度への課題は以下の通りである。</p> <p>① 学力向上委員会・・・中高教員のTTでの授業交流の際、高校教員による授業を実施したらどうか。</p> <p>② 交流活動委員会・・・オンラインを駆使して山之村小中学校の子どもたちとも交流したらどうか。</p> <p>③ 地域連携委員会・・・コロナ禍のため、合同での活動は難しいが、各校の活動の振り返りをオンラインで交流することはできないか。</p> <p>・組織的には、神岡中学校・山之村中学校との連携であるが、可能な範囲で北稜中学校・古川中学校、さらには神岡小学校、古川町の小学校との連携を積極的に図る。（生徒や保護者・教職員対象の学校見学会、連携中学校以外の生徒の体験学習等の実施）</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・異校種間の交流と共通理解は貴重なもので、神岡町の児童生徒たちの12年間の学校生活をより有意義にサポートする稀有な事業であり、地域全体から高い評価を得ている。</p> <p>△年2回、神岡中学校と山之村中学校を訪問し、面接指導を行っているが、北稜中学校や古川中学校へも訪問し、何らかの指導ができないか。</p> <p>△本校にしかない魅力をもっと多くの人に知ってもらい、連携校から卒業生の60%の生徒が入学し、地域の活性化につながればよいと思う。</p>
--